

# 2011年6月期事業計画書

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン

WWF ジャパン

## 2011年6月期事業計画及び収支予算

前期は、期中に新公益財団法人への移行及びその後の決算期の変更(従来3月末→公益認定後6月末)が予定されていた為、期初の段階から予め15ヶ月分(2010年4月～2011年6月)の活動計画、収支予算を準備していました。今回1月末に無事公益認定を取得できたことから、旧財団法人としての決算は10ヶ月(2010年4月～2011年1月)、また新公益財団法人としての最初の期は5ヶ月(2011年2月～6月)という変則的な決算期となります。ここでは、公益認定後最初の期の事業計画及び収支決算につき、ご説明いたします。

### 【前期に掲げた重点課題について】

前期から今期にかけての15ヶ月間は、2007-2010コンサーベーションプラン及びビジネスプランの仕上げの年であると共に、新たな計画策定の年でした。こうした節目に際し、期初に下記4点を重点課題として掲げて対処して参りましたので、その達成状況についてまずご報告申し上げます。一方、前期の事業活動報告および収支決算につきましては、本年4月に予定されております次回理事会、評議員会にて改めてご報告致します。

#### ①2011年～2015年新中長期計画策定

-GPF(Global Programme Framework:WWFネットワークにおける新しい自然保護活動の枠組み)に準拠した、2011年以降のコンサーベーション・プランの策定、及びこれと平仄をとったビジネス・プランの策定作業を行って参りました。その結果、別添の「WWFジャパン中期ストラテジックプラン(2012.6期～2016.6期)」を策定、現在はこのプランに基づいた活動内容・人員配置を検討中です。この推進に当たり、人材育成基本方針に基づく次世代リーダー育成のための人事施策の視点も取り入れて参ります。

#### ②生物多様性条約 COP10 への参画と効果的な利用

-2010年10月に開催されたCBD-COP10では、WWFネットワークから延べ80名もの来訪者がありましたが、ロジ面を引き受け、ネットワークから感謝されました。

-期間中には、政府代表団へのロビーイングを始め、特設ブースでの展示、サイドイベントの実施、メディア向けイベント、及び広報活動等を通じ、認知度の向上を目指しました。

-一方で、これだけ大きい国内でのイベントに主体的に関わることはめったになく、その準備段階を含め反省点も散見されました。1月には全体会議の形で反省会を行い、次に繋げる教訓を共有いたしました。

#### ③公益法人制度改革に向けた移行準備・認可申請

-予定通り、2010年10月に移行申請書を提出し、1月末無事に新公益財団法人への移行に

ついて認定を取得、2月1日に登記も滞りなく完了しております。

#### ④「10万人プロジェクト」テスト期間の1年延長

-個人サポーターの拡充を目指し、市民団体としての発言力の強化、安定資金の確保を図る目的で2008年度より2年間実施して参りましたが、さらに局内より広くアイデアを募ると共に、改定されたウェブをマーケティングツールとして最大限活用することを前提に、もう1年同規模程度のプロジェクトとして実施し、2011年度以降の更なる会員増強に向けた投資の可能性を見極め中です。

-2010年11月末時点での実績ベースでは、サポーターの純増数が約4,200人で、会員・寄付者の数は、約35,000人と、2008年のスタート時点で立てた目標にほぼ沿った実績となっています。

-一方、個別のツールごとに検証した場合、モンベルやナショナルジオグラフィックの会員向けパンフの同梱や、既に実績のある雑誌への同梱、JCBカード利用者からの寄付等で成果が出ている一方、オンラインツールの方では、楽天のバナー広告によるもの以外は期待したほどの成果に結びついていません。

-2012.6期に向けた投資の可否を判断する為にも、2011.6期における残りの期間でさらに検証を行い、実績を積み上げて行くことと致します。

## ～ 自然保護室 ～

### 【今期事業計画及び収支予算の概要】

#### I. 2011.6月期自然保護室活動方針

2011年度以降のコンサーベーションプラン(中期5年計画)の枠組みが確定したことを受け、具体的な5年計画の策定に取り掛かります。次期活動期間(2011年7月～2016年6月)を通じ、新規プロジェクトの立ち上げも含めて能動的に活動を進めるだけでなく、5年の間に新たな展開を狙うべき視点を見落とさないために、連携強化を見据えたグループ体制についても並行して検討します。

また、この期で重要なのは、現行の2006-2010年度コンサーベーションプランの仕上げです。次期コンサーベーションプランで拡大発展を目指すプログラム、収束するプログラム等、各プログラムの状況に応じて、活動の締めを行います。2006-2010年度コンサーベーションプランでは、以下の5つのプログラムの下、各4つのプロジェクト、それに2つの単独プロジェクトについて、5年計画を策定し、活動を進めてきました。

#### 5つのプログラム

森林、海洋、気候変動(地球温暖化)、有害化学物質、南西諸島

## 2つのプロジェクト

野生生物（生物多様性）、琵琶湖エコリージョン

### 横断的活動 自然保護室 広報

このうち、野生生物(生物多様性)については、現在までの国内法体制整備に特化したプロジェクトは収束します。今後は、WWFネットワークが守るべき象徴種の、現場の保護活動に貢献しながら、生物多様性保全全般について、LPI向上に結びつく活動を組み立てていくこととなります。また琵琶湖エコリージョンについては、2009年度までにすべての目標が達成され、WWFジャパンの活動は一段落しました。

5つのプログラムのうち、有害化学物質は2009年度で収束しています。残りの4つのプログラムについては、次期コンサーベーションプランでも発展を目指して活動を継続しますが、より国際的な貢献を目指して内容を精査する予定です。

この中には、気候変動問題と森林問題の双方に関係が深いREDDや、エネルギー問題など、新たな活動を展開する予定のものも含まれます。また、WWFならではの、フィールドプロジェクトを支援しながら生物多様性の向上を目指す活動と、そこで問題を引き起こしているステークホルダーに働きかけることでEFを引き下げる活動を、より密接に連携させて、相乗効果を狙います。

5ヶ月という短期間ではありますが、次期への足がかりをしっかりと固める所存です。

## ～ トラフィックイーストアジアジャパン ～

### II. トラフィックイーストアジアジャパン活動計画

#### ■ 基本方針

2011年2月—6月は、2010年度に実施した大きな二つの柱である、薬用植物と、水産物に力を集中させます。薬用植物は、CBDCoP10におけるイベントの実施により、その考え方を紹介することができました。今後は、薬用アロマティック植物を実際に扱う企業や消費者の賛同者を増やす活動を行います、

また、水産物では、WWFの Smart Fish NIとWWFジャパンと協力し、サケの日本における基礎的な市場構成を調査します。

さらに、トラフィックネットワークからの要請事項への対応(熊胆調査)と、以前に実施した調査結果(ペット調査、インターネット取引調査、水産物トレーサビリティ調査)を報告書としてまとめ、少なくとも3冊の報告書を出版する予定です。

#### ■ 活動内容

<p>ネットワークテーマと目的</p>	<p>トラフィックイーストアジアジャパン 2011年2月-6月活動 (ネットワークテーマから日本が環境に大きな影響を与えているものを選択)</p>
<p>&lt;資源の確保—薬用植物の取引&gt; 目的:採集と取引のよりよい管理のために実践ツールを開発し、薬用植物、人間、健康管理の持続可能な将来を作り出す。</p>	<p>CBDCcP10 でのイベント開催により、野生から採集された薬用・芳香植物の認証制度フェアワイルド、および持続可能な利用を広く周知したことをふまえ、この考えに賛同する企業などの協力先を開拓し、増やす。</p>
<p>&lt;資源の確保—水産物取引&gt; 目的:海洋水産資源の生態的に持続不可能で違法な漁獲を削減すること</p>	<p>SFNI から助成を受け、日本国内のサケ製品の流通構造に関して調査する。本調査は、日本市場への供給状況や主要取扱い企業を特定することを目的とする。結果は、WWF ドイツ、日本、ロシアをはじめとするSFNI で内部基礎資料として利用される。</p>
<p>&lt;資源の確保—林産物取引&gt; 目的:木材の伐採と取引の管理と透明性を促進すること</p>	<p>関係者に早期に警告することを目的とし、中国から輸入される木材の日本市場の状況についての調査結果をまとめ、報告する。</p>
<p>&lt;資源の確保—薬用動物取引&gt; 目的:薬用として利用される動物の持続可能な利用</p>	<p>トラフィックネットワークの活動である、東南アジア、東アジアにおけるクマノイ(熊胆)調査の一環として、日本でも調査を行う。</p>
<p>&lt;野生生物取引に関する法体制整備&gt; 目的:国の野生生物取引の関連法や規制や執行が新たに発生した野生生物課題に対応できるようにする。</p>	<p>「種の保存法」の登録方法と罰則規定の改正について、行政に要望し、ロビー活動を継続する。海外の生物多様性と日本のペット市場について広く報告する。</p>
<p>&lt;野生生物取引に関する消費者への普及啓発&gt;</p>	<p>・上記プロジェクトの目的を達成するための普及啓発として、ウェブページを活用する。また、海外の事例を積極的に紹介する。</p>

## ～ 業務室 ～

### Ⅲ. 2011 年 6 月期業務室活動方針

#### ■ 基本方針

2011 年 2 月から 6 月の 5 ヶ月間では、10 万人の個人サポーター獲得を目指す「10 万人プロジェクト」の春のキャンペーンの実施や、大型法人案件開拓業務の推進によって、目標一般会計収入予算 2 億 8658 万円、収益会計 9750 万円を達成します。また、2011 年度に向けて、WWF ネットワーク 50 周年記念事業の準備も進めて参ります。

#### ■ 各グループ方針

個人グループについては、以下の2つの重点課題に取り組めます。

1. 開拓業務:10 万人プロジェクトの一環としての春のキャンペーンの実施
2. 維持業務:サポーター管理システムの開発を中心とした受け入れ体制の強化および会員とのコミュニケーション強化による会員継続率 93%台の維持

開拓業務については 10 万人プロジェクトの活動として、「春のキャンペーン」を実施し、新たな媒体をテストするとともに、新規会員 2,500 人の獲得を目指します。現状のサポーター維持業務の処理能力向上のために、クレジットカード請求に関するシステム追加開発を行うとともに、各種申込みのウェブ受付などによる窓口・発送業務の合理化を図ります。さらに、増加した新しいサポーターを高い継続率で維持するために、オンラインを駆使したタイムリーなコミュニケーションの強化や、50 周年を活かしたツアー・イベント等その他のコミュニケーション機会の創出を図ります。

法人グループは、既存の支援企業からの継続的な支援を確実に確保することを最優先とします。特に、法人会員については、会員サービス強化や退会法人のフォローなどを行い、少しでも退会企業を減らすよう努力します。法人寄付については、既存の寄付案件に加え、大型寄付案件の成約に向けて、自然保護室および WWF ネットワークと連携しながら積極的な提案活動を展開します。

募金グループは、活動報告等のサポートをきめ細かく行うことによって既存の募金協力者をしっかりと維持します。それと同時に、社員募金・マッチング寄付、ポイントからの寄付、株主優待サービスからの寄付、クリック募金など、あらゆる募金手法に柔軟に対応することにより、新規募金協力者の獲得を図ります。

パンダショップは大幅に刷新した新通販システムを活用し、利便性のよくなった EC サイトにより多くの客がより頻繁に訪問するよう、ネットに照準を合わせた積極的な誘導策を実施します。また 50 周年記念商品や支援金付き商品等、他の通販と差別化する商品企画を立案、完売することによって、目標売上げを目指します。

業務室広報グループでは、3 月下旬から 4 月末に予定されている伊勢丹/三越チャリティキャンペーンの成功をめざすとともに、ネットワーク 50 周年を PR する基本ツールを揃えるなど、2011 年後半の本格的な記念事業に向けた準備作業を推進します。

また、3月26日に開催するWWFネットワークによる世界的なキャンペーン、「アースアワー」については、業務室のすべてのグループと、自然保護室気候変動グループが連携し、日本における温暖化防止行動の気運を盛り上げるという目標達成に取り組みます。

## ～ 企画調整室 ～

### IV. 2011年6月期 企画調整室活動方針

#### ■2010年度までの基本方針

企画調整室は、組織運営の基盤である、人事、総務、経理、情報システム(IT)の各業務および、局全体に係る広報業務を担当しています。2010年度までに達成する目標は、以下の3つです。

- ①市民や社会への説明責任を果たし、透明性の高い組織となる
- ②活動を効果的に評価し、その結果を改善策に反映できる
- ③WWFネットワークの一員として、世界の自然保護に貢献できるしくみを整える

#### ■2011年6月期の主な活動

2011年6月期は、2010年度までの中期計画の目標達成をめざし、主として次の課題に取り組みます。

##### 1. 公益財団法人への円滑な移行

公益財団法人の認定後の諸手続きを進め、移行にともなう、名称変更、会計期の変更などを遺漏なく実施します。また、新体制における各役員会等の円滑な運営を支援し、新しい定款にもとづく組織運営を軌道に乗せます。

##### 2. プロジェクト評価の一部導入

事業の成果報告をわかりやすく明確にするため、WWFネットワークが設定したプロジェクト評価の運用を段階的に開始します。また、2012年6月期より全局的な導入を計画している新しい個人目標管理制度にも関連付けできる仕組みを整えます。

##### 3. ウェブの円滑な運用維持

いまや最大の情報発信ツールであるウェブをさらに充実させます。支援獲得につながる企画の推進・工夫、ユーザーの視点に立ったサイト全体の構築を進めるとともに、各事業の広報活動に資するものとします。

#### 4. 情報資産の管理運用プロジェクト継続

団体の資産である情報、保管すべき情報の的確な管理と効果的な利用を目的とし、2011年6月期は前年度に引き続き、重要度が高い情報、文書などを整理します。一部運用の改善をはかり、職場内で書類を探すムダな時間を減らす工夫をします。

### 【予算概況】

公益認定後に決算期を従来の3月末から6月末に変更することとした為、新公益財団法人としての初回の決算期は、2011年2月から6月までの5ヶ月間という変則的な期間となります。収入については、10万人プロジェクトの効果等も期待される個人会費や、第2四半期に予定される法人寄付金等の収入が期待できる一方、例年夏と冬に実施しているドネーションアピールがないことにより、個人寄付金や募金については多くを期待できないものと考えています。また、昨年来苦戦の続くパンダショップの売上げも急速な回復は難しいものと予想しています。一方、支出については、WWF50周年記念事業関連で広報費として2百万円を追加的に見込むほかは、例年規模の支出が継続するものとして、支出予算を組んでいます。

全体としては、事業活動収入合計427百万円、事業活動支出合計490百万円、税引前の収支で、63百万円の支出超を見込むものの、この分を特定資産の取り崩しによりカバーしていくこととします。

#### ■ 事業活動収入

収入合計 427百万円

個人会費	100百万円
法人会費	14百万円
個人寄付金	28百万円
法人寄付金	145百万円
募金収入	10百万円

#### ■ 事業活動支出

全支出合計 490百万円

事業費支出	427百万円
管理費支出	63百万円